

# 総務委員会 活動報告 (要旨)

## 調査テーマ

### 「新しい広聴のあり方」

現在、半田市では第6次総合計画「次代へつなぐ市民協働都市・はんだ」を掲げ、「まち」を構成する全ての「人」による、参画と連携による協働のまちづくりを進めています。

市は総合計画を始めとした各種計画の策定や見直しにも幅広く市民から意見を聴き、意見の反映に努めてきました。市議会としては、市民の関心が高く、市民生活に影響が大きい施策や事業の立案段階では十分な市民参加が得られていない状況にあると考えています。

半田市が今以上に、市民の皆さまから愛着と誇りを持たれ、協働のまち「半田」が次代に引き継がれていくためには、計画を形づくる段階から幅広い市民参加を得て、市民の意思や意見が施策、そして市政に反映され、それを市民が実感できることが重要であると考へ、新しい広聴のあり方と、その有効な手法について調査、研究することとした

ものです。

現在の半田市の状況を踏まえ、全国的にも広聴活動において市民議会や市政モニター制度などの先進的な取り組みを行い、効果をあげている、東京都三鷹市、神奈川県茅ヶ崎市、埼玉県朝霞市、岐阜県多治見市を視察するなど調査研究を行った結果、委員からは次のような意見が出されました。

- ・ 議会などへの参加依頼を行う各年代別の無作為抽出数を茅ヶ崎市のように最終的な参加人数を想定して行うことは有意義である。
  - ・ 中立性を保つために青年会議所、大学など事業を主導する会議体や人材「担い手」の発掘が重要である。
  - ・ 議会などで出された意見に対する市の対応を明らかにすることで市民の満足度が高まり、参加意欲も高まる。
  - ・ 議会のテーマは、例えば庁舎の建て替えなど、市民生活に深く関わるものが相応しい。
  - ・ 若い世代の参加が少ないため、その世代の参画を促すための工夫が必要である。
- 市政モニター制度を使った

アンケートについて、

- ・ 現在半田市が行っている市民アンケートを改善することで、市政モニター制度と同等の効果が得られるのではないかと。
- ・ 登録者への調査票送付のため回収率が高く年代構成をうまく整えられれば効率的な運用である。
- ・ 日程や拘束時間等の問題で話し合いに参加できない市民に対してモニター登録による意見聴取は有効な手法である。

その後、委員会での議論を経て、市へ行った提言は次の次の通りです。

1. 市民の関心が特に高くなると思われる、又は、市民生活に極めて大きな影響があると見込まれる施策においては、施策を構想する段階から市民の声を積極的に聴くようにしていくことが必要である。そのため、半田市は、これらの施策を構築していくに際し、既存の広聴手法に加えて、広く市民の声を聴くことができ、また、市民の市政への参画も推進できる市民議会を行うこと。

2. 施策を構想する場合、必要に応じて市民アンケート等の複数の手段を講じること。

以下は提言にかかる留意点について添えさせていただきます。

### ○市民議会では

- ・ 参加者の選出は、最終的な参加者の構成が市の人口年代構成を同じくした「ミニ半田市」となるなど年代別の抽出数を工夫した無作為抽出とすること。
- ・ ファシリテーターの役割は重要であり、その選出にあたっては、行政主導とならないようにすることが必要である。商工会議所・青年会議所等の各種団体や、大学、市民議会経験者等、民間の力を得られるよう協力をお願いし、公正中立を保つこと。

- ・ 議論がより深まるよう、市は参加者に対して、事前に施策についての考え方を十分説明し、積極的な討議により意見が醸成されるよう努めること。
- ・ 市は討議会の市民意見を尊重すること。
- ・ 市民意見をホームページや市報に載せるなどし、意見

への対応を明らかにすること。

### ○市民アンケートでは

- ・ 意見聴取が困難な若い世代やサイレントマジョリティーの意見を聴くために、抽出数の工夫など既存の手法を見直し、改善を図ること。

市民がまちづくりから置き去りにされることなく、主体的・積極的に参画できる半田市であるよう、市議会総務委員会から半田市に対し提言を行いました。

### 【市民議会とは】

無作為で選ばれた市民が、必要な情報提供を受けて地域問題などの政策課題を討議し意見を集約して合意形成を目指す市民参画のシステム。ドイツなどで行われている「プラーヌクスツェレ」という手法を日本風にアレンジしたものです。

